

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第786号 平成26年8月14日

無敵の人（1）

月刊「創」編集長の篠田博之氏は、『無敵の人』。何とも恐ろしい言葉だが、今そういう人が増えつつあるのは確かだ」と述べています（5月21日付北海道新聞から）。

篠田編集長がいう「無敵の人」とは、ネット用語で、無職で家族もなく、まさに失うものを持たないために、反社会的な行為をして罰せられる事を恐れない人の事をいいます。

明治の元勳西郷隆盛は「命もいらす、名もいらす、官位も金もいらぬ人は、始末に困るものなり。この始末に困る人ならでは、艱難を共にして国家の大業は成し得られぬなり」と述べたと伝えられていますが、本来「無敵の人」とは、「大義のためには死をも恐れない」その様な人の事を指しているべきだと思っています。

しかし、今社会の底辺で広がりつつある「無敵の人」には、自分の命と引き換えにする程の大義はあるはずもなく、あるのは、社会に対する屈折した復讐心といえるでしょう。

「無敵の人」というのは、一体誰に対して「無敵」なのでしょう。

私には、「無敵の人」というのは、投げ返してくれる人もいない暗闇に向かってボールを投げているように見えます。そんな彼らの姿には、「無敵の人」というイメージはそぐわないと思います。むしろ、行き場が無くなって、檻褻のように「我が身を捨てている人」というべきではないでしょうか。

「無敵の人」という冠は、かえって彼等に誤った存在証明を与える事になりはしないか、私には気に掛かります。

皆さんは、人気漫画「黒子のバスケ」の作者を脅迫し逮捕された渡辺博史被告の事を記憶していますか。

この「黒子のバスケ脅迫事件」というのは、2012年（平成24年）に発生した事件で、漫画「黒子のバスケ」の作者（藤巻忠俊氏）等を標的に、作品の書店からの撤去やイベントの中止等を要求して脅迫し、イベントの中止等が相次いで発生したというものです。

この「黒子のバスケ脅迫事件」を起した渡辺被告は、4月20日に開催された公判で自ら意見陳述を読み上げたのですが、その内容は、普通に暮らす者にとって誠に衝撃的なものでした。

渡辺被告の意見陳述は、篠田編集長が彼のブログに全文を掲載していますが、週刊誌アエラの5月19日号にも、意見陳述の抜粋が掲載されていますので、それらを基に、「無敵の人」について考えてみたいと思います。

渡辺被告は、かつて自分が手に入れたくて手に入れられなかったものとして、「上智大学の学歴」、「バスマンガでの成功」、「ボーイズラブ系二次創作での人気」の3つを上げています。これらは、彼にとってはとてつもなく切実な問題だったようですが、さりとしてこれらを手に入れるために必死に努力した訳でもなさそうです。意見陳述書の中で彼は、「10代20代をろくに努力もせず怠けて過ごして生きて来たバカが、30代にして『人生オワタ』状態になっていることに気がついて発狂し、自身のコンプレックスをくすぐる成功者を発見して、妬みながら自殺の道連れにしてやろうと浅はかな考えから暴れた」と述べています。

渡辺被告が攻撃の対象に選んだのは、「黒子のバスケ」で成功した作者ですが、勿論、この作者は渡辺被告とは何の関係もありません。ただ、「黒子のバスケ」という作品で成功し、渡辺被告から理不尽な妬みをかっただけです。

これは、彼自身が自らいうように「噴飯ものの動機」で、誰が聞いても納得し得るものではありませんが、渡辺被告は、「人生で初めて燃えるほどに頑張ったのが一連の事件」だったと述べています。

渡辺被告は、自分を「負け組」と認識しており、「いわゆる『負け組』に属する人間が、成功者に対する妬みを動機に犯罪に走るというタイプの事件は、ひょっとしたら今後の日本で頻発するかも知れません。」と述べています。

社会の格差はますます広がっており、「負け組」に落ちれば這い上がることが極めて難しいという状況の中で、若者達の間広がる閉塞感や絶望感は私にも理解出来ない訳ではありませんし、渡辺被告が指摘するように、今後も同様の事件が起こる可能性は否定できません。

しかしそうはいても、「自分が不幸だから、周りの人間を道ずれにして不幸にしてやる」という発想は、決して許されるものではありません。

渡辺被告は、自分の裁判を通して「不幸の道連れという動機は利欲目的と同等かそれ以上に悪質」という判例を作って頂きたい」と、まるで社会正義を正すために立ち上がったようないい方ですが、そうした物言いはどこかで自分を認めて欲しいという欲求の表れでもあると思います。

渡辺被告は、逮捕され手錠をはめられた時、「さほどショックは受けなかった」と述べています。それは、「いじめっ子と両親とによってはめられていた見えない手錠が具現化しただけ」だったというのですが、見えない手錠は、どうすれば外す事が出来るのでしょうか。（塾頭：吉田 洋一）